

全国協議会 ニュース

2025年4月1日発行 第392号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田 1-3-4KT ビル 3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：梅田正造 題字：仲田順和
https://www.marrows.or.jp E-Mail:office@marrows.or.jp

東京マラソン 2025 チャリティ

全国協議会は3月2日(日)に開催された東京マラソン 2025に寄付先団体として参加、当協議会を寄付先に選んでくださったチャリティランナーの皆様、そのご支援に対する感謝を伝えるプログラムで交流を図りました。また、大会前3日間行われた東京マラソン EXPO 2025では骨髄バンクの啓発も行いました。



した。一週間後にはランニングを開始するという回復ぶりだったそうです。今年は受け取ったドナー助成金をチャリティとして当協議会にご支援いただきました。患者さんのため骨髄を提供いただき、チャリティランナーとして出走。幾重にも患者さんに思いを寄せてくださいました。さまざまな思いで参加してくださった55人のチャリティランナーの皆様、ボランティアスタッフの皆様、ありがとうございました。

移植者枠を完走して



深美陽市さんは20年ほど前、高校生の時に白血病を発症し、その後、骨髄移植を受けました。治療を経て社会復帰し、現在は小学校の教師として (2面に続く)

東京マラソン EXPO 2025 2/27(木)～3/1(土)

ランナーがアスリートビブス(ゼッケン)を受け取る東京ビッグサイトの東京マラソン EXPO 2025会場でブースを設営。チャリティランナーの方にオリジナルプレゼントを渡し、感謝を伝えました。背中に患者さんへのメッセージを書いたゼッケンをつけて走ってほしいとお願いしたところ、喜んで応じてくださいました。

「母娘でドナー登録しています!」、「昨年、20歳で提供しました」、「ドナーに選ばれたために今回の出場は見送ります」と適合時に届く封筒を見せてくださる方などチャリティランナー以外にも大勢立ち寄りくださいました。

沿道応援 5カ所(千葉の会からの報告)

東京マラソン 2025の沿道応援に千葉の会から4人が参加しました。応援場所は移植経験者のほか、さまざまなハンディキャップのある方が参加する10.7kmコースのフィニッシュでもある日本橋です。当日は非常に暖かく半袖でも大丈夫なほどでした。車いすが

凄いいスピードで走り去り、その後トップグループが続々と通過していきました。スタートから1時間弱で移植経験者トップがゴール。ノボリを見たランナーや付き添いの方から、次々に声を掛けていただきました。九州や愛知など遠方から参加の方も多く、全国で輪がつながっているとしみじみと実感しました。(萩原匡祐)

全国協議会チャリティラウンジ

東京国際フォーラムの会議室に個別ラウンジを設営し、理学療法士によるマッサージや軽食サービスなどを実施。ご家族との待ち合わせ場所として大勢の方にご来場いただきました。

会場では「いのちの輝き展」を開催し、海外のチャリティランナー向けに英訳も準備。移植を受けた患者さんからのドナーへの感謝の言葉などをご覧いただきました。梅田理事長からランナー一人ひとりに感謝状を贈呈し記念撮影。とても素敵な笑顔を見せてくださいました。昨年は一般ランナーとして出走権を得たにもかかわらず、適合通知が届いたので出走を見送り、無事に骨髄提供された方がいらっしゃいま

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

骨髄バンク NOW

(MONTHLY JMDFP(3月14日発行)より抜粋)

■日本骨髄バンクの現状(2025年2月末現在)

	1月	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,402	2,187	562,662	992,755
患者登録者数	192	166	1,703	70,727
採取数	骨髄	63	60	26,983
	末梢血幹細胞	18	30	2,424
	合計	81	90	29,407

2023年4月から統計基準が移植件数から採取件数に変更

■2月の区別ドナー登録者数

献血ルーム/530人、献血併行型集団登録会/1619人、集団登録会/15人、その他/23人

■2月の年齢別ドナー登録者数(現在数)

10代 4,487人/20代 97,700人/30代 137,555人
40代 210,551人/50代 112,369人

■2月の20歳未満の登録者 176人

注)数値は速報値のため訂正する場合があります。

(1面からの続き)

「命の授業」を行い、自身の闘病経験を伝えていきます。闘病中は病気に関する情報を調べて不安になるのではなく、医師を信じて「なるようになる」という気持ちで前向きに病気と向かい合いました。

深美さんは、同じ病気を克服して元気に活躍している自分の姿が、現在闘病中の患者さんにとって大きな勇気となると信じています。これからも「命の授業」を続け、患者さんたちに希望を与え続けたいと考えています。彼の姿勢と活動は、多くの患者さんに力強いメッセージを届けています。

(インタビュアー 全国協議会理事
山口明大)

第47回日本造血・免疫細胞療法学会総会に参加して



筆者：左から3番目

2月27日(木)～3月1日(土)、約4千人の参加者で開催された当学会へ、協議会の立場で参加させていただいたことは、私自身の学会への視点を変えただけではなく、非常に楽しい実のあるものとして勉強になったことが最大の収穫といえそうです。ティッシュ入

りのリーフレットを配りながら協議会のPRをするという、私にとっては初体験の活動でしたが、ポスターの前で足を止める人たちの中には真剣に聞いてくださる方も多く、患者支援基金のことや白血病フリーダイヤルの話には特に力を入れたつもりです。患者さんやそのご家族の力に少しでもなりたいという思いで活動している団体があるということをもっと知っていただきたい、そして、そのことを患者さんやそのご家族に伝えていただきたいという希望を持ちながらの3日間の活動でした。

(全国協議会アドバイザー/
元血液内科看護師 尾上裕子)

九州・沖縄地区ブロックセミナー報告



2月22日(土)かごしま市民福祉プラザにおいて九州・沖縄地区ブロックセミナーを開催し、加盟2団体と九州地区で活動をされている3団体の総数21名の参加者がセミナーに集いました。今回は12年ぶりの鹿児島県での開催。地元、かごしまの会からは活動歴35年を超える超先輩方から、新しい若手の会員さんまで多くの参加がありました。

〈前半〉情報交換では、未だ地域差のある登録会会場での日赤さんとの関わり等の問題に、各県、各個人から解決策などが出されました。このように想いを一つとして活動している仲間と対面で集えるブロックセミナーは、重要性があることを改めて実感しました。

〈後半〉かごしまの会の顧問で、かわかみこどもクリニック院長の川上清先生に小児白血病について大変分かりやすいご講演をいただきました。川上先生は1990年に発足した九州骨髄バンク推進連絡会議(2010年解散)の鹿児島支部に発足当初から関わっておられ、骨髄バンクの歴史や当時の普及啓発活動を写真と共に紹介されました。また川上先生は1992年に鹿児島

県で初の小児の骨髄移植を担当されたドクターで、数年前の医療講演会にて40代になられ元気なお姿の患者さんと再会されたそうです。現在も現役で小児科クリニックを運営されながら、会のイベントに参加されています。

そしてお二人目は都城市の菱沼廣志さんにドナー体験をお話いただきました。講演活動は始められたばかりとのことでしたが、以前看護学校での登録会を兼ねた講演では、話を聴かれた学生さんが骨髄バンク登録をされる姿を見て、今後も体験談が活かせるよう活動をしていきたいと語られました。今後、登録方法は変化していきますがボランティアの根底は変わりませんね。

(九州・沖縄ブロック担当理事
中村福代)

全国骨髄バンク推進連絡協議会 35周年記念大会

開催にあたって ー第2弾ー

「設立35周年全国骨髄バンクボランティアの集い in 名古屋」

「全国協議会ニュース 第391号」でもお知らせしましたが、5月24日(土)、名古屋市立大学医学部桜山キャンパス 病棟・中央診療棟3階ホールにて「設立35周年全国骨髄バンクボランティアの集い in 名古屋」が行われます。現在、当日に向けて準備中。第一部は式典、第二部は「愛知こどもホスピスプロジェクト」、「仕事と治療

の両立支援ネット-ブリッジ」、そして行政の皆様にご登壇いただきます。ボランティア団体として他団体との交流を積極的に行い、お互いの立場を理解しあい、それぞれが様々な機会を互いに紹介しあってネットワークをさらに広げることは重要だと考えます。他団体と交流することで、さまざまな立場からの視点での患者・患児や患者家族

を取り巻く環境を把握することができると同時に当事者が何を求めているかを知ることからです。ボランティアは、それぞれの活動目的や内容は異なっていますが、最終的に目指しているものは同じだと思います。今回のイベントに参加いただき、今後のボランティアのあり方を一緒に考えたいと思います。第三部については只今出演交渉中です。どなたにご登壇いただけるか……、お楽しみに。

(主管団体 認定NPO あいち骨髄バンクを支援する会 水谷久美)

**プルデンシャル生命保険株式会社
箱根駅伝沿道応援ボランティアでの寄付金贈呈式開催**



2月20日(木)、毎年箱根駅伝沿道応援で啓発活動にご参加いただいているプルデンシャル生命保険株式会社(以下、プルデンシャルといいます)の寄付金贈呈式がゲートシティ大崎

(品川区)の同社で行われました。プルデンシャルは日本ではじめて骨髄ドナーに入院給付金を支払うサービス(ドナー・ニーズ・ベネフィット=DNB)を2005年4月に始めた会社です。

贈呈式会場には箱根駅伝の沿道応援にご参加いただきました社員の方が多くお集まりになり、全国協議会からは大谷貴子副会長と梅田正造理事長が参加しました。実際に箱根駅伝沿道応援では、準備に多くの時間を要し、ランナーが目の前を通過するのはあつという間であることを、臨場感あふれる語

り口でお話しになるなど、終始和やかな雰囲気でしたが、同時にDNBがどのような思いで開発されたか、そしてこのサービスがどれだけ患者さんを支えているのか、そしてプルデンシャルの皆様がそのことに対しどれだけ誇りを抱いているのかを強く感じました。

DNBは、今や多くの保険会社が導入しており、ドナーの背中を後押ししてくれています。そのサービスを開発してくださったことに、深い敬意と感謝を申し上げます。いただいたご寄付は佐藤きち子基金へ繰り入れ、移植患者さんの支援金に充てさせていただきます。

2025年4月1日

**特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会
第13期役員選考のための第3回告示**

全国骨髄バンク推進連絡協議会
役員選考委員会委員長 水谷久美

特定非営利活動法人全国骨髄バンク推進連絡協議会(以下、全国協議会)第13期(2025年5月25日開催通常総会終了後~2027年5月開催通常総会終了時)の役員選考を行うため、本年1月20日付で第1回告示により役員推薦、立候補者を募ったところ、3月3日の届出締切日までに推薦、立候補があり、役員選考規程の定める第2回役員選考委員会を3月5日に開催し、審議しましたが、その後会長候補者となった方から辞退の申し出があったために、第3回役員選考委員会を3月28日にWeb開催し、審議した結果について、以下の通り告示します。

1. 会長、副会長、理事、監事の「推薦・立候補の状況」について
 - ・正会員(加盟団体)から提出された「推薦書および立候補届」については、不備はないことが確認された。
2. 会長、副会長、理事、監事の候補者選考結果について
 - ・会長には、4名のうちから候補者が選考されたが、その後、当該候補者より辞退の申し出があった。
 - ・副会長には、定数3名に対し推薦のあった3名全員が候補者として選考された。
 - ・公募理事については、定数3名に対し4名の立候補があったが、協議の結果、経験を有する3名が候補者として選考された。残る1名については、今後参与、または非常勤事務局員などとして協議会の活動内容を把

握、経験を積んだ上で役員を目指してもらうよう役員選考委員会より理事会に進言する。

- ・推薦理事については、全国区の定数3名に対し、4名の推薦があった、推薦された者のうち1名が役員選考規程第5条第2項の定めにより被推薦権を有していないため、被推薦権を有する3名が候補者として選考された。地区推薦理事の定数8名に対し、推薦権のあった8名全員が候補者として選考された。
 - ・監事については4名の推薦があったが、全国協議会の業務全般を知悉する2名が候補として選考された。
 - ・尚、辞退のあった会長候補者については、速やかに選考の環境を整えるべく、理事会に進言する。
3. 理事会への報告、第3回告示などについて
 - ・全国協議会理事長・臨時理事会への報告 2025年3月31日(月)
 - ・第3回役員選考告示 2025年4月1日(火)
 - ホームページ上での告示
 - 正会員へ告示文書の送付
 - 全国協議会ニュース4月号への掲載

4. 通常総会での役員選任
2025年5月25日(日)

以上

**特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会
第13期 役員候補者一覧**

任期(2025年5月25日~2027年5月)

役職	氏名	所属団体	新・重任
副会長	大谷 貴子	—	重任
	渋谷 俊徳	—	重任
	田中 重勝	—	重任
地区推薦理事(北海道)	齊藤 千秋	北海道骨髄バンク推進協会	重任
地区推薦理事(東北)	菅 早苗	秋田県骨髄提供者を募る会	再任
地区推薦理事(関東甲信越)	笠原千夏子	特定非営利活動法人骨髄バンク長野 ひまわりの会	再任
	館野 守男	埼玉骨髄バンク推進連絡会	重任
地区推薦理事(東海北陸)	鈴木 敏生	岐阜骨髄献血希望者を募る会 認定特定非営利活動法人 あいち骨髄バンクを支援する会	重任
地区推薦理事(近畿)	浅野 祐子	NPO法人 関西骨髄バンク推進協会	重任
地区推薦理事(中四国)	山口 明大	とくしま骨髄バンクを支援する会	重任
地区推薦理事(九州)	内藤 真澄	NPO法人 福岡子どもホスピスプロジェクト	新任
全国区推薦理事	北折健次郎	認定特定非営利活動法人 あいち骨髄バンクを支援する会	重任
	山村認一郎	なら骨髄バンクの会	重任
	村上 忠雄	神奈川骨髄移植を考える会	重任
公募理事	梅田 正造	—	重任
	川下 勉	—	重任
	若木 換	—	重任
監事	黒部 光司	—	重任
	笠原 慶一	—	重任

各地のたより

各地のたよりを写真添えてお寄せください。

北海道

チャリティー「春待ちコンサート」開催

北海道骨髄バンク推進協会は、3月4日(火)夜、札幌コンサートホールKitaraで通算23回目となるチャリティーコンサートを開催しました。

出演は、元日本フィルハーモニー交響楽団首席フルート奏者の阿部博光さ

んとピアニストの阿部佳子さんご夫妻で、息の合った美しい演奏に会場は心温まる雰囲気であふれました。

曲の合間には、阿部博光さんから、お子さんが移植を受けて白血病から再起できたお知り合いからこのコンサートに対し多額のご寄付を頂戴したエピソードの紹介がありました。また、ロビーでは「あやちゃんの贈りもの展」も併催し、多くの方が熱心にあやちゃんの絵をご覧になり、その短い生涯に思いをはせていらっしゃいました。

早く出演をお引き受けくださった阿



部様ご夫妻、ご来場いただいたお客様、開催に向けてご協力いただいた皆様に心から感謝を申し上げます。

札幌はようやく雪解けの季節です。患者さんにも早く春が来ますように。(北海道骨髄バンク推進協会)

東京

防災フェア 今年も開催



3月9日(日)、新宿中央公園ファンモアタイム広場で、毎年恒例の防災フェアが開催されました。2011年3

月11日の東日本大震災の被災地復興のために2012年より14年間続いている、東京新都心ライオンズクラブと西新宿角三町会が主催するイベントで、都内のライオンズクラブや学校・地域組織がブースを出し、焼きそばや豚汁・カレーなどを振る舞い寄付を募ります。会場内では今年も献血バスを2台配置し、献血100人・ドナー登録50人を目標に、全国協議会のボランティアが活動しました。

この会場での献血・ドナー登録会は5年連続開催しているためすでにド

ナー登録をおこなった方も多く、ドナー登録は16人でした。献血は目標の100人を達成しました。

また全国協議会でブースを出店し、子ども用ゲームには景品におもちゃを用意し、おめんや菓子パンの販売もおこないました。おめんは当日演奏で出演した中学生の吹奏楽部女子たちに大人気でした。募金箱への寄付金も、22,309円集まりました。

来年も引き続き協力体制を取りたいと思います。(全国協議会副理事長 若木換)

鹿児島

私ができること、それは祈りをこめて歌うこと



2013年11月24日愛のコンサート(鹿屋市文化会館) 向かって左:中村かし子 右:中村智子(姉妹) 義幸さんへ

「あなたはなぜ逝ってしまったのですか?」そんな気持ちを癒してくれる場所はどこにもない!誰もが大切な人を失った時そう思う。

義理の弟義幸さんは北海道札幌の出身。鹿児島道産子会に入り嬉しそうだった。そんなあなたは50そこそこの若さでこの世を去った。あなたの病気が発覚した時いたたまれなくなりかごしま骨髄バンク推進連絡会議の大田さんと知り合う。私の出来ることをし

ようと骨髄バンク支援コンサートをすることにした。その日は天気も良くあなたはちょうど鹿児島空港に友人を迎えに行つてその足で指宿に向かう途中でしたね。オペラ歌手としてヨーロッパの劇場で長年活躍してきた姉智子のアヴェ・マリアが始まるとイオンモ-

ル鹿児島風の広場は一気にコンサート会場化し雑踏の中に人々は足を止めた。あなたはそこにじっと立ち祈るように聞いていた。白血病は恐ろしい病気だ。一人でも多くの骨髄ドナーを集め助かる命を増やしたい。

(中村かし子)

心からのご寄付に感謝申し上げます ●2月21日~3月20日(敬称略)

当協議会への寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。

●一般	●募金箱	●つながる募金
藤波 敬子 現金 10,000円	株式会社 クスリのアオキ 現金 1,568,119円	レンブラントホテル東京町田 現金 26,111円
細川クリニック 院長 細川和弘 現金 2,000円	株式会社 マルト商事 現金 73,192円	イオン都城店 現金 5,078円
三瓶 和義 現金 986円	株式会社 ナルックス 現金 14,324円	株式会社カンセキ駅前店 現金 3,204円
吉野 知子 現金 550円	株式会社 フクヤ 現金 11,341円	防災フェア募金箱 現金 22,309円
匿名 切手 3,772円	株式会社 THINK フィットネス 現金 593,990円	日本造血・免疫細胞療法学会募金箱 現金 2,366円
匿名 現金 1,000円	山本雅也ライブ募金 現金 26,180円	●キモチと。 現金 4,254円
●佐藤さち子造血細胞移植患者支援基金	巣鴨クリニック 現金 12,177円	●マンスリーサポート 現金 42,000円
樋田 真由美 現金 350,000円		
万々 宏 現金 100,000円		
竹田 幸子 現金 30,000円		
日根 和美 現金 10,000円		
本田 真奈美 現金 5,000円		

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名: 特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会 郵便振替口座の振込用紙を郵送いたします。当協議会までご請求ください。